

令和4年度 第1回ユニバーサル都市・福岡推進協議会 議事要旨

1 日時:令和4年8月31日(水) 10時00分 から 11時30分 まで

2 場所:オンラインにて開催(福岡市役所15F 1503会議室)

3 出席者:

定村委員長、平井副委員長、伊賀上委員、シグデル委員、
清水委員、張委員、関根委員、松浦委員、吉住委員
(欠席者:荒牧委員、猪野委員、郷原委員)

4 開会

委員紹介

5 議題

(1) 委員長、副委員長の選出について

- ・委員長は、委員の互選により定村委員を選出
- ・副委員長は、委員の中から平井委員を委員長が指名

(2) 令和4年度におけるユニバーサル都市・福岡の推進について

- ・事務局より、資料2に基づき内容を説明

委員からの主な意見

<今年度の主な取組みについて>

- ・音声コードアプリ「ユニボイス」のサポートについては、携帯電話事業者4社との連携による説明・サポートを開始するとともに、福岡チャンネルで解説動画も公開されており、非常に良い取組みである。これをきっかけとして、物理的なバリアと同様、視覚や聴覚認知といった情報コミュニケーション分野においてもUDが必要という意識の醸成が望まれる。
- ・「ユニボイス」については、視覚障がいのある方だけでなく、小さな字が見えにくくなっている方など、様々な方が利用できるのも、ユニバーサルデザインの取組みを市民に広げる一助になると考える。
- ・「ユニボイス」について、海外の方にとっては、アプリをダウンロードしないと使えない点など、様々な課題はあるが、ワクチン接種券のような身近なところまで音声コードの印刷が

広がっている状況は歓迎すべきものである。

- ・福岡市は現在、“天神ビッグバン”や“博多コネクティッド”によって、多くのビルが建て替わってきている。都心部のまち並みが大きく生まれ変わる全体の動きの中で、ユニバーサルデザインの観点から何ができるか考える必要がある。
- ・「ユニバーサル都市・福岡」の推進に関する各施策について、単に実施するだけでなく、その実現に向けたロードマップにおけるそれぞれの位置づけ（長期目標・中期目標・短期目標）を考えることで、“誰一人取り残さない”という観点から、多様な人々をカバーできるのではないだろうか。
- ・イベントを実施する際には、ポストコロナを見据え、様々な配慮が必要。
- ・「ユニバーサル都市・福岡」の推進を開始した約10年前に比べると、事業の数が増えるとともに進捗が見られ、様々な取組みが行われていると実感した。
- ・今後ポストコロナに向けて、様々な観光のタイプが増え、外国人への対応も身近なものになってくるので、外国人に対する施策にもしっかり取り組んでいく必要がある。
- ・障がい当事者として、「ユニバーサル都市・福岡」の推進がなされ、外出しやすくなったり、色々なところに行きやすくなった、という点では非常に評価している。
- ・市政アンケート調査結果を見ると、他の年代に比べて年配の方の認知度が低いことなどが、市民全体の認知度の向上が進まない要因の1つになっていることと感じた。様々な世代の方が共有できるような取組みを、今後も継続して実施していく必要があるとあらためて感じた。
- ・「ユニバーサル都市・福岡」の実現に向けて、「制度の数・種類は多いが、実際に使われていない・知られていない」という点と「担当部署がバラバラに施策をやっていて、まとまった情報を得られない」という、行政における課題を踏まえ、取り組んでほしい。
- ・ユニバーサルデザインは、障がい者や高齢者に対する福祉施策ではなく、ソーシャルインクルージョンを進めるための手段である。福祉分野に偏らずに、学校やオフィスのユニバーサルデザインを進めるための施策や、LGBTQ に対しての施策など、幅広い分野で「ユニバーサル都市・福岡」の実現に向けて、取り組んでほしい。

6 意見交換【テーマ】児童向け副読本の改定について

委員からの主な意見

- ・PDFで完結するのではなく、様々なリンクを張るなどして、動画や画像にアクセスできるようにして、福岡市のいろいろなところにつながる“玄関口”となるような教材ができると、子どもたちが楽しみながら学べるものになる。
- ・現在の副読本には、「外国から旅行で来た方」という表現があるが、現在は作成時点に比べて「日本に居住している外国人」も多い。また、「お年寄り」という表現があるが、高齢者の方々から「お年寄り」という表現は使わないよう、要望がなされているところ。全体的に細かい表現を精査した方が良い。
- ・動画等にアクセスして、当事者の語りが聞けると、子どもたちの理解が進む。

7 閉会